



NISHI EYE HOSPITAL



西眼科だより 第27巻4号

(季刊誌)

2025 年 12 月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

医療法人仁志会 西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26

抗老化 anti-aging アンチエイジング

抗老化（アンチエイジング）の未来は、単なる延命ではなく「健康寿命の延伸」と「QOL（生活の質）の向上」を目指し、生活習慣改善から最先端の再生医療・遺伝子研究まで多角的に発展していくと考えられています。社会全体では 100 歳超えが当たり前となり、キャリアやライフスタイルも、より柔軟に変化していくでしょう。また老化を“治療可能なプロセス”と捉える流れが加速し、遺伝子レベルでの介入が実用化されることで、若々しく活動的な人生をより長く送れる未来が予測されています。眼科領域における「抗老化（アンチエイジング）」は、単に外見の若返りを目指すだけでなく、加齢に伴う目の病気（白内障、緑内障、加齢黄斑変性、ドライアイなど）の予防と早期治療、そして QOL の向上を目的としています。当院では、加齢に伴う目の症状や疾患に対して、さまざまな治療的アプローチをご提供しております。以下にその一部をご紹介します。詳細につきましては、当院スタッフまでお尋ねください。

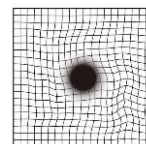
●白内障治療 [多焦点眼内レンズ]

近年の多焦点眼内レンズは、3 焦点（遠・中・近）、5 焦点（遠・遠中・中・近中・近）、更には連続的に焦点が合う EDOF などが主流となりつつあります。これらのレンズは、ハロー・グレア（光のにじみ・まぶしさ）を抑えながら、遠方から中間距離（パソコン作業など）、そして実用的な近方距離（読書など）まで幅広くカバーし、眼鏡への依存度を大きく減らす事ができます。最新の多焦点眼内レンズでは、コントラスト感度の向上や光学設計の進化により、より自然で快適な見え方が実現され、ライフスタイルに応じた選択肢がさらに広がっています。



●加齢黄斑変性症などの治療

加齢黄斑変性の治療は、主に滲出型を対象として行われます。現在の中心的な治療は抗 VEGF 薬の硝子体注射で、新生血管の増殖を抑制し進行を防ぎます。ただし効果を維持するためには、継続的かつ定期的な治療が必要となります。その他にも、状況に応じて以下の治療が選択されます。●光線力学的療法(PDT) ●レーザー光凝固術 ●ステロイド薬の注射 ●サプリメントの摂取（萎縮型への補助的対応） ●生活習慣の改善（特に禁煙が重要）。一方、萎縮型の進行を抑える治療薬が 2025 年 9 月に厚生労働省より承認されました。日本で初めて萎縮型に対する薬物治療が認められ、治療の選択肢が広がった画期的なニュースです。

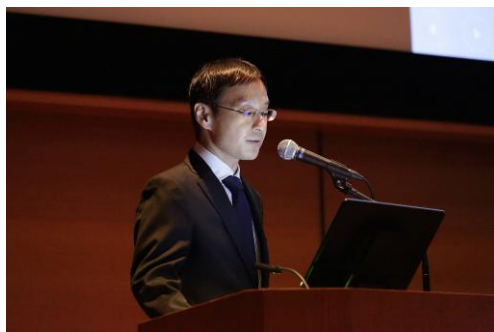


●眼瞼下垂の治療

眼瞼下垂は内服薬や注射では改善が難しく、基本的に手術で治療します。主な方法は、まぶたを上げる筋肉を短縮・修復する挙筋短縮術（挙筋前転術）で、皮膚のたるみが強い場合は皮膚切除術（眉毛下切除など）を併用します。重度の場合には前頭筋吊り上げ術を選択することもあります。当院では局所麻酔下で CO₂レーザーを用いて手術を行いますので、出血が少なく、視野の確保がスムーズです。眼科で行う眼瞼下垂手術は“視機能の改善”が目的であり、美容的な修正までは対象外です。

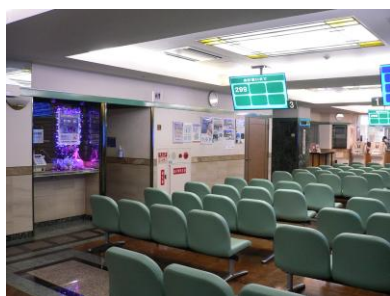


当院の西悠太郎先生(副院長・学術研究統括部長)が、日本臨床眼科学会シンポジウム「超高齢社会の老視に挑む【老視治療と多焦点眼内レンズ】」にパネリストとして登壇しました。本シンポジウムは慶應義塾大学の根岸一乃教授と川崎市立多摩病院の松澤亜紀子部長が座長を務められ、**老視治療に関する多彩なテーマ**が取り上げられました。当日は多くの参加者が来場し、会場はほぼ満席となるなど、関心の高いセッションとなりました。悠太郎先生からは、多焦点眼内レンズや EDOF 眼内レンズを含む最新の知見が紹介され、これらは今後の診療や院内教育にも活かしてまいります。



世界円錐角膜の日 パープルライトアップ運動に参加

11月10-16日



世界円錐角膜の日とは、一般の方にも「円錐角膜」という病気についての理解を深め、「円錐角膜」の患者さんが困っていることを知ってもらうために定められた日です。

パープル(紫)にライトアップ
当院 1F 待合室にて

多焦点眼内レンズ 無料説明会

毎月第1木曜日

西眼科病院 1F にて

多焦点眼内レンズ (フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術)

予約不要

2026年

開催日: 1月8日(木) 2月5日(木) 3月5日(木) 4月2日(木)

保険外診療(保険適用外)

16:00 開始 (30 分間)



ご興味のある方は、この機会にぜひご家族やご友人とご参加ください。多焦点眼内レンズについて、わかりやすくご説明いたします。

当院 1F 待合室にて



特殊・専門外来

● 白内障/屈折矯正外来(フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術・多焦点眼内レンズ・ICL(眼内コンタクトレンズ)・オルソケラトロジー・マイオペン点眼) ● 角膜外来(角膜疾患全般・角膜移植(PKP/DSAEK/DMEK/DALK)・羊膜移植・円錐角膜・角膜クロスリンク・エキシマレーザーPTK) ● ぶどう膜炎外来 ● 網膜硝子体外来(メディカルレチナ・サージカルレチナ) ● 緑内障外来 ● 涙道外来(チュービング・DCR) ● 眼瞼・眼形成外来(内反症・眼瞼下垂・翼状片) ● ドライアイ外来 ● ロービジョン外来 ● 斜弱眼筋麻痺外来 ● 小児眼科外来(斜視・弱視等)

当院では、基本理念のもと、スタッフ全員で症例の共有を行い患者さんにとっての最適解を選択しております